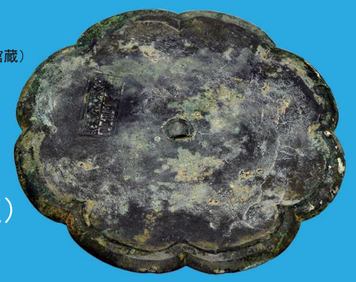
2023
9/5 TUE ▶ 11/26 SUN

黎明館3階 企画展示室

黎明館企画展

中世前期の領主居館

Lords' Residences in the Early Medieval Times



湖州鏡
寺師見國コレクション（黎明館蔵）

学芸講座（展示解説講座）

「中世前期の領主居館」

日時：令和5年9月16日（土）13:30 ～ 15:00
講師：黎明館主任学芸専門員　上村　俊洋
会場：黎明館3階　講座室
※　要事前申込
（申込方法は、黎明館ホームページまたはチラシをご覧ください）

展示解説

日時：令和5年9月9日（土）、10月22日（日）、11月18日（土）
いずれも13:30 ～ 14:10
会場：黎明館3階　企画展示室
※　事前申込不要、要入館料

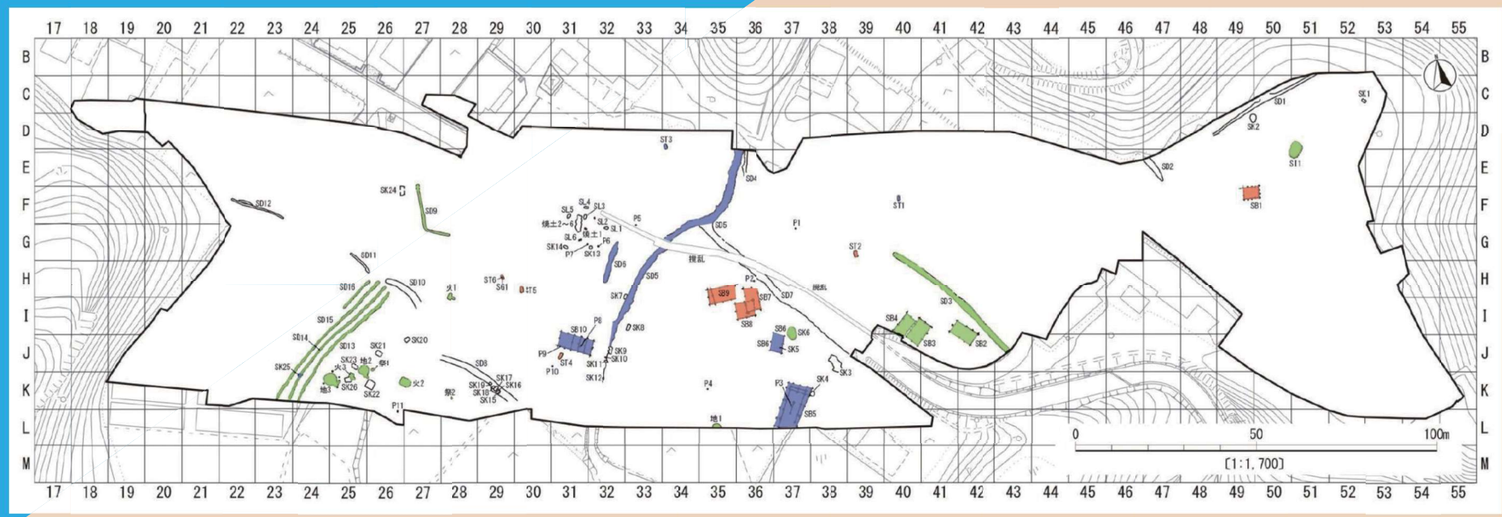
島津荘惣地頭職を得た島津氏は、紆余曲折を経て、薩摩・大隅・日向国諸県郡に勢力を拡大し、他地域では稀な700年にわたる南九州の統治者として存続しました。室町時代以降、他地域から南九州への領主勢力の転入・定着はみられなくなりますが、古代末から南北朝期には多くの勢力が南九州に渡来しました。在来勢力と外来勢力の軋轢のなかで、没落・分裂して他勢力に臣従する勢力もあり、南北朝時代の争乱を複雑化させました。

黎明館開館40周年記念企画特別展「南北朝の動乱と南九州の武士たち」開催に関連して、その背景となる古代末から中世前期の南九州の領主層の様子を考古資料から紹介します。

第１章　集落区画の変遷からみる中世社会の変化

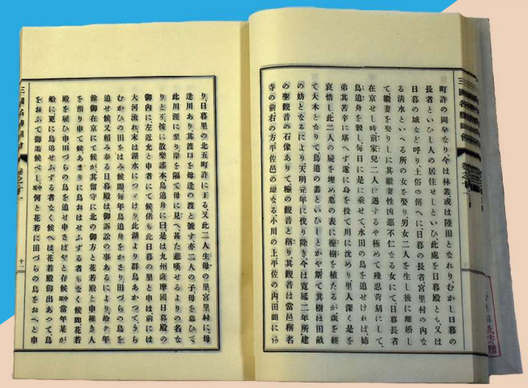
永吉天神段遺跡（曽於郡大崎町）の、東端（第１地点）では古代集落が、中央部（第２地点）では古墳時代から近代までの集落跡が、西端（第３地点）では中世の地下式坑等が検出されました。

中央部の区画溝や掘立柱建物跡は、主軸方向や出土遺物から、平安末、鎌倉、室町以降の３時期に分かれ、社会情勢の変化が区画の変化と結びつきます。平安末の在地領主は屋敷墓に中国産の陶磁器や湖州鏡を副葬する経済力を持ちました。鎌倉時代には紀伊半島以東の産物が多数流入するようになります。



永吉天神段遺跡第２地点遺構配置図　遺構の時代（平安時代末　鎌倉時代　室町時代以降）（公財）埋蔵文化財調査センター編2018『永吉天神段遺跡3 第2地点-2 古代・中世・近世編』掲載図版

西ノ平遺跡出土「太舎」墨書土器レプリカ
原資料：鹿児島県立埋蔵文化財センター蔵



『三国名勝図会』巻十一（日暮長者記事）
寺師見國コレクション（黎明館蔵）

第２章　開発領主の居館

平安前期には、京都系官人出身者が、国府から離れた開発後進地域の水陸交通の要所に居宅を構えて開発拠点として、富豪化しました。

平安末期から中世にかけて、大隅正八幡宮領や島津荘では、郡郷院司が在地領主化しました。平安末に中央政権と対立した阿多忠景等の薩摩平氏一族や、南北朝期に島津氏と争う加治木氏一族等の居館跡では貴重な貿易陶磁器が出土しています。

第３章　東国勢力の経営拠点

南九州に転入してきた関東御家人等は、鎌倉周辺等で見られる竪穴建物を交通拠点等に構築し、鎌倉ー京都ー南九州の所領を結ぶ物流に関与しました。貿易陶磁器だけでなく、東海産の陶磁器も南九州に流入します。

鎌倉後期には、荘園系在来領主側と、地頭側との土地をめぐる対立は深刻化し、荘園内を領家政所側と地頭所側で二分する下地中分が行われるなど、平安末以来の在来勢力と東国勢力との軋轢が高まりました。在来勢力内部も同族間で権益を争いました。

第４章　居館の城塞化

荘園経営拠点や領主居館では大溝で区画されていた例が見られます。南北朝期に武力抗争が顕在化すると、こうした荘園経営に関わる拠点が城塞化し、抗争が継続化すると、近隣の丘陵を城郭化して山城として利用するようになります。荘園経営拠点は、穀倉地や水陸交通の要所を押さえており、こうした立地に構築された中世城郭は、南北朝期の争奪対象になりました。

不動寺遺跡中世大溝SD2（鹿児島市教育委員会提供）